

2009年 4月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所だより～



○三河湾で潮干狩りがはじまりました

3月中旬、春を感じるポカポカ陽気の中、蒲郡市と幡豆町へ潮干狩りに行ってきました。愛知県はアサリ生産量で全国1位を誇っており、その中心となる三河湾には、多くの潮干狩り場があります。今年も2月中旬から潮干狩りシーズンに入り、多くの人でにぎわっています。今回は、3つの潮干狩り場についてご紹介します。

①新たにオープンした形原海岸（蒲郡市）

当事務所が実施した中山水道航路浚渫事業で発生した良質な土砂を有効活用して造成された人工干潟を利用した潮干狩り場です。干潟造成後にアサリがたくさん育つようになったため、25年ぶりに潮干狩り場が復活しました。白砂青松で景観がとても良い砂地の潮干狩り場です。



①オープンした形原海岸

②西浦海岸（蒲郡市）

岩場で遠浅の潮干狩り場です。多くの人たちが干潮時に、大きなアサリを狙って沖へ沖へと移動し、潮干狩りを楽しんでいます。



②西浦海岸の様子

③東幡豆海岸（幡豆町）

2月中旬から8月初旬までの長い期間、開いている潮干狩り場です。干潮時になると護岸から約500mほど離れた前島（うさぎ島）まで浅場になり、歩いて渡れます。当日は、多くの観光客が島まで徒歩で渡り、バケツいっぱいのアサリを採っていました。

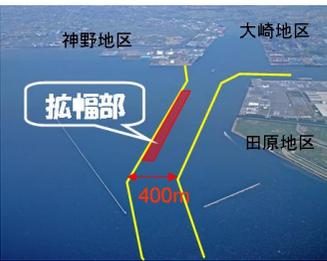


③東幡豆海岸の様子

三河湾産のアサリは、身が大きくおいしいです。地元ブランドにもなっておりますので、みなさんもぜひ、潮干狩りを楽しんでみてはいかがでしょうか。

○豊橋航路全区間、水深-12m、幅400m化

国外、国内から三河港（田原地区、大崎地区、神野地区）に来る船は、水深-12mの豊橋航路を通って入ってきます。特に、大型の船舶は、浅い箇所を通航すると座礁のおそれがあるため、必ず豊橋航路を通ります。このように豊橋航路は、三河港の最も大切な航路の1つです。



豊橋航路

しかし、今までは、航路幅400mのうち一部区間では300m分しか-12mの水深を確保できておらず、通航しにくい状況となっていました。また、近年は大量の貨物を一度に運べるよう船の大型化が進んでいることもあり、早急に400mの幅を確保することが求められていました。近くを船が通航している場所での工事であるため、安全確保に十分注意を払ってきましたが、平成20年度末をもって無事に工事が完了しました。これにより、利用しやすい三河港となりました。引き続き三河港の機能向上に努めて参ります。

○平成21年度予算成立

3月27日、平成21年度予算が成立しました。

全国的に公共事業費が削減されている中で、当事務所が担当している三河港神野地区多目的国際ターミナル事業、衣浦港武豊北ふ頭地区多目的国際ターミナル事業、衣浦港中央ふ頭東地区岸壁改良事業、衣浦港中央ふ頭西地区岸壁改良事業の必要性が認められ、4つの事業を併せて、18億円（前年度比6%増）が配分されました。その他には、三河湾への玄関口である中山水道航路の管理・保全事業、三河湾の環境改善を目的とした海域環境創造・自然再生事業（シーブルー事業）が配分されました。

本年度もよりよい港湾づくりを目指して事業を推進していきますので、ご理解ご支援よろしくお願致します。

★ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧くださいませ。http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp ★

港名	事業費
三河港	11.5億円
衣浦港	6.5億円
中山水道航路	0.8億円
海域環境創造・自然再生事業	1.0億円
合計	19.8億円

Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 「平成20年度 WAVE 港・海辺活動振興助成」活動報告会開催
- 渡し場かもめ会による海岸清掃○伊良湖港みたと振興計画認定証授与式
- M-wan（エムワン）カップ開催（職場サッカー大会）
- 平成20年度第3回BCM研究会 ○東三河広域防災研究会
- 日間賀島「観光朝市」の開催 ○三河湾で潮干狩りがはじまりました
- 豊橋航路全区間、水深-12m、幅400m化○平成21年度予算成立

☆CONTENTS☆



☆巻頭コラム

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

3月28日、碧南市の衣浦グランドホテルで衣浦港振興会創立50周年記念祝賀会が開催されました。



平松守彦氏の講演

当日は、日本港湾振興団体連合会会長で、前大分県知事の平松守彦様による記念講演会『港湾力と地域力』も行われました。平松様は四半世紀にわたり大分県知事を務められ、“一品一村運動”の生みの親でもあります。

式典に先立ち、衣浦港のご案内をさせていただきましたが、200社を超える企業が臨海部に立地し、地元の活性化に寄与している状況に特に感心されたご様子でした。



式典の様子

講演では、まず、船にとって魅力ある港、背後地（特に農業）との連携のよい港とすることが「港湾力」向上につながる、とのお話をいただきました。

一品一村運動関係では、カボス（国内シェア：ほぼ100%）、シタケ（同34%）、焼酎（同30%）等が全国で高いシェアを占めるようになったこと、関サバ、関アジ等がブランド化に成功したことをご紹介いただきました。ユニークな視点として、100gあたりの単価で比較すると、シタケや焼酎の方が自動車よりも高価であることもご説明いただき、工場が誘致できない場合は、高付加価値のものを作ることが大切、とのコメントをいただきました。一品一村運動は世界に広がっており、平松会長は現在でも、フィリピンやマレーシアといったアジア諸国のみならず、マラウイや南アフリカといったアフリカ諸国にも足を運ばれ、活動の環を拡げられているとのこと。85歳にしてこの行動力と熱意。ただただ圧倒されるばかりでした。

今月に入り、当事務所も約3分の1のメンバーが入れ替わり、新しい体制となりました。引き続き、ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

お問い合わせ よくなら みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

国土交通省中部地方整備局 三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(053)32-3251 FAX(053)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県豊橋市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

☆最近のトピックス☆

○「平成20年度 WAVE 港・海辺活動振興助成」活動報告会開催

2月27日、WAVE（（財）港湾空間環境研究センター：東京都港区）において「平成20年度WAVE港・海辺活動振興助成」を受けた全国の37団体による成果発表会が開催されました。当事務所管内からは、高浜市の「渡し場かもめ会」と美浜町の「ターミナルタウン河和推進協議会ワーキンググループ」の2団体がそれぞれ取り組み概要を報告しました。

市民ボランティア団体「渡し場かもめ会」からは、高浜市芦川地区の海岸において3月～11月に毎月1回実施されている清掃活動（下の記事参照）や夏休み親子工作教室の取り組み、芳川渡し場まつりの様子などが紹介されました。報告後の意見交換では、会場に集まった他の団体から助成金の使い道に関する質問を多数受けておられ、大変興味を持って頂いたようです。

「ターミナルタウン河和推進協議会ワーキンググループ」からは、河和港とその周辺海岸における清掃活動やカヌー体験、海辺の映画会の取り組みなどについて報告がされました。リーダーの力量が十分に発揮された冗談混じりの流暢な説明で、会場を大いに盛り上げてくれました。両地区からの報告は10分間という非常に短い時間でしたが、1年間の活動が凝縮された発表内容になっていました。今後の他の団体の取り組みへの参考になったのではないかと思います。

○渡し場かもめ会による海岸清掃

3月1日、高浜市の特別養護老人ホーム安立荘前の海岸で、渡し場かもめ会による清掃活動が行われました。渡し場かもめ会は、衣浦大橋の開通で失われた渡し船「藤江の渡し」の文化を語り継ぐ取り組みを行っている団体で、海を大切にすることを育てようと、海岸清掃や公園の草刈りなどを行っています。また、毎年10月には、昔ながらの渡し船によるお嫁入りを再現した「芳川渡し場まつり」を開催し、伝統を今に伝えています。

清掃活動は、3～11月の第1日曜日、朝8時から行っています。今回は4ヶ月ぶりということもあり、軽トラック2台分にもなるゴミが回収されました。この伝統ある海岸保全活動に協力いただける方の参加をお待ちしています。

○伊良湖港みなと振興計画認定証授与式

3月7日、伊良湖港みなと振興計画認定証授与式が、伊良湖クリスタルポルト（田原市）にて行われました。式典では中部地方整備局富田副局長から事業主体である愛知県と田原市への認定証の授与、来賓として山本明彦衆議院議員、鈴木恩県議会議員、河合照人田原市議会議員から祝辞を頂きました。

みなと振興計画とは、智恵と工夫をこらし「みなと」の振興を通じて地域の活性化を図る港湾所在市町村の取り組みを国が支援する制度です。

この制度は平成19年度から始まり、中部地方整備局管内では、名古屋港、清水港に続いて伊良湖港が3港目の認定となりました。今後、伊良湖港の棧橋や臨港道路、緑地の整備などが行われ、平成25年度に完成する予定です。

伊良湖港周辺には、海水浴場の他、恋路ヶ浜や伊良湖岬灯台日出の石門などの景勝地があり、また田原市は農業算出額日本一であり、大アサリ（アサリとは思えないほどの大きさです）やメロン、キャベツなど食の楽しみも満喫できます。

春には道沿いに菜の花が咲き、イベントも多く行われています。そんな魅力ある伊良湖を皆さんも訪れてみて下さい。



報告会の様子



清掃活動の様子



伊良湖クリスタルポルトにて



山本明彦衆議院議員からの祝辞

○M-wan(エムワン)カップ開催(職場サッカー大会)



ゴール前での接戦

3月7日、豊橋市臨海運動広場にて、当事務所の主催によるエムワンカップを行いました。エムワンカップとは中部地方整備局（港湾関係）のサッカー愛好家が集まる11人制サッカー大会です。試合は、清水港湾事務所チームと伊勢湾連合チーム（中部地方整備局港湾空航部、三河港湾事務所、名古屋港湾事務所）の2チームで行いました。

試合内容は、前後半終了後2対2となり、延長戦へ。延長戦でも決着がつかず、同点引き分けという結果でした。予想以上に運動量が多く過酷なものでしたが、職場の仲間との交流を深める有意義な時間を過ごすことができました。



○平成20年度第3回BCM研究会

3月11日、三河港の臨海部におけるBCM研究会を実施しました。港湾全体BCMという新しい取り組みのためか、出席者の発言も活発で、研究会を重ねる毎に参加者の防災に対する意識や考え方が非常に高くなってきていると感じました。今年度は3回の研究会を開催しましたが、本研究会を通じて学識者、港湾管理者、地元自治体、臨海部企業が有意義な議論を進める場が構築できたのではと感じました。関係者が連絡を密にすることにより三河港の防災体制強化につながると考えています。

今後は関係機関の具体的な行動を想定して、この中から見えてきた課題・問題点を解消することでさらなる防災機能の強化に向けた取り組み行なっていきたいと考えています。



研究会の様子

○東三河広域防災研究会

3月19日、豊橋技術科学大学駅前サテライトオフィス（豊橋市松葉町）において東三河広域防災研究会が開催されました。今回は国土交通省中部地方整備局設案ダム工事事務所 河野副所長より「TEC-FORCE(※)の概要と岩手・宮城内陸地震での体験」、同局港湾計画課 玉石課長補佐より「中部地方整備局における産業防災の取り組み」の二つについて報告がありました。



玉石課長補佐の報告

河野副所長からは、昨年5月に中部地方整備局で結成されたTEC-FORCEの隊員として、6月に発生した岩手・宮城内陸地震で体験した状況、実際に行なった内容の話がありました。また、玉石課長補佐からは、災害時の港湾機能を確保するための取り組みについて報告がありました。

国土交通省では災害に対して安心・安全な地域づくりのために、災害の事前・事後の対応について検討を進めています。

※TEC-FORCE:被災状況の迅速な把握、被害の発生や拡大を防止するための技術的な支援を被災した地域へ行うことを目的としています。

○日間賀島「観光朝市」の開催

3月22日、日間賀島西港にて日間賀島に宿泊された観光客を対象に鮮魚や干物などを販売する「観光朝市」が開催されました。このイベントは、平成19年度より地域づくりの検討を進めている「日間賀島まちづくり協議会」の主催で開催されたものです。

当日は、朝から強風が吹き荒れ、雨も降ったり止んだり、ゆっくり買い物を楽しんでいただけのような天候ではなかったのですが、無料で振る舞われたアサリの味噌汁も1時間程度で予定数がなくなるなど、この悪天候を考えれば上々の出足だったのではと思います。今回の朝市は宿泊者を対象とし、広くPR等は行いませんでしたが、今後は日間賀島の新たな観光イベントとして更なる検討が進められるものと思います。次回開催が待ち遠しい限りです。



朝市での観光客の様子